

令和7年度病害虫防除技術情報第2号

令和7年6月27日

三重県病害虫防除所

近年、斑点米カメムシ類の発生量が多い状況です。
出穂直後の防除を徹底しましょう。

1 対象作物 : 水稻（早期、普通期）

2 対象病害虫名 : 斑点米カメムシ類
(特にイネカメムシ、クモヘリカメムシ)

3 発生状況と今後の予測

- (1) 農業研究所（松阪市）の予察灯（4月第1半旬～6月第4半旬）におけるイネカメムシ誘殺数は、水田で4頭（平年0.7頭）、畑で3頭（平年0.6頭）と多くなっています。
- (2) イネカメムシについては、近年、水稻の出穂期における予察灯の誘殺数が増加しています（図1）。また、従来の8月以降の多発に加え近年は7月にも発生ピークがあり、前倒し傾向にあります。昨年ほどの暖冬ではないものの、本年への越冬量は多いと考えられます。
- (3) 6月中旬から気温の上昇と共に、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメの小型の斑点米カメムシの予察誘殺数が多くなっています（図2）。
- (4) 現在の早期水稻の生育状況は、平年（過去10年の平均）と比較して、草丈は短く、茎数は並となっています（三重県農業研究所作況データより）。
- (5) 1か月予報（6月26日・名古屋地方気象台発表）によると、6月28日からの1か月は、気温が高く、曇りや雨の日が少ない見込みで、斑点米カメムシ類の活動には好適な条件となると予測されます。

4 防除対策

- (1) 畦畔のイネ科雑草からの移動を防ぐため、畦畔除草は出穂10日前までに行いましょう。
- (2) イネカメムシやクモヘリカメムシによる吸汁は不稔を発生させるため、発生地域では出穂直後に薬剤散布をしてください。その他の斑点米カメムシ類の薬剤散布は穂揃い期に行い、多発時にはその10日後にも行ってください。
- (3) 薬剤抵抗性発達の回避のため、I R A Cコードが異なる殺虫剤のローテーション使用をしてください。

- (4) 周囲よりも出穂の早い水田では、被害が集中するので防除は必ず行いましょう。
- (5) 斑点米カメムシ類は移動性が高いため、広域での一斉防除が効果的です。
- (6) 薬剤は農薬登録情報提供システムで調べることができます。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

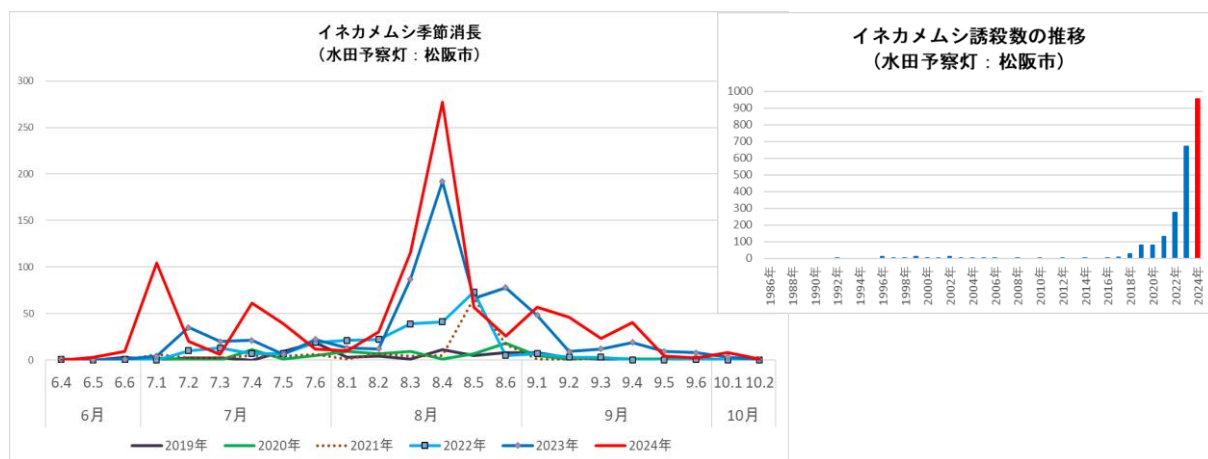


図 1 水田予察灯におけるイネカメムシ誘殺数の推移

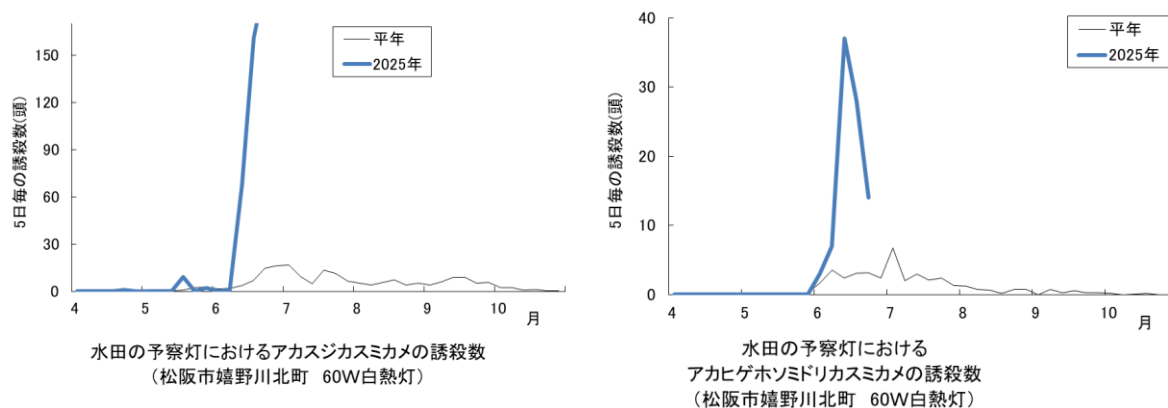


図 2 小型斑点米カメムシの誘殺数の推移（2025）

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。